

温泉利用状況調査結果（府全域）

調査施設数

調査施設数は、府全域で96施設であった。（調査対象施設数は、102施設）

1 施設の別

96施設の内訳は、「宿泊施設」31、「浴場」53、「その他の施設」12施設であった。なお、その他施設の内訳は、「病院」3、「老人保健（介護）施設」5、「プール」2、「スポーツ施設」1、「あし湯」1であった。

2 主たる泉質（計102の複数回答があった）

「単純泉」が37、「塩化物泉」33、「炭酸水素泉」17と、この三種でほぼ90%をしめていた。

3 温泉利用の浴槽の総数

96施設で783浴槽に温泉を利用していた。ひとつの施設で289浴槽に利用していたものを除くと、一施設あたりの浴槽数は、平均5.2（494浴槽/95施設）であった。

4 利用の許可

ア、温泉利用許可の時期は、昭和40年の1施設が最も古く、40年代で3施設、50年代で4施設、60年代4施設で、以後3施設前後で推移し、平成9年から増傾向にあり、平成14年が最も多く16施設となっていた。

イ、使用する源泉は、96施設すべてで許可を得た源泉と同一であった。

5 表示することなく入浴剤を使用(添加)することについて

96施設すべてにおいて、表示せずに入浴剤を使用「したことがない」との結果であった。

6 表示して入浴剤を使用(添加)することについて

96施設のうち、「現在も表示して使用」が4施設（計10浴槽）、「かつて表示して使用したことがある」が1施設、「使用したことがない」が91施設であった。

（「現在も表示して使用」・「過去に表示して使用していた」もの5施設について）

ア、入浴剤使用の表示場所（複数回答可）

「表示して入浴剤を使用している」4施設では、「施設の入り口や受付に表示」が2施設、「浴槽そば」が3施設であった。

イ、入浴剤の添加の時期

現在・過去に「表示して使用」の5施設で、「通年」で添加が2施設、「不定期」に添加が3施設であった。

ウ、入浴剤の添加の期間（約～年前）

1年前、2年前、5年前、11年前から添加していた。なお、不明が1施設であった。

エ、入浴剤の製品名

「ラベンダーのドライフラワー」、「じっこう」、「ゆず湯」、「真珠風呂」、「ヘルス」などであった。

オ、入浴剤を添加している理由(複数回答可)

「施設のPR効果を高める」、「いろいろな浴槽に入ってもらいたい」が、それぞれ2施設、「季節感を感じてもらいたい」が1施設であった。

その他として「イベントで使用している」が、1施設であった。

7 入浴剤以外のものの使用(添加)について

96施設のうち、「現在も使用している」が5施設(計12浴槽)、「過去に使用していた」が1施設、「使用したことはない」が90施設であった。

「現在も使用している」・「過去に使用したことがある」もの(6施設)について

ア、表示の有無(現在使用・過去使用の6施設について)

全施設が「表示して使用」であった。

また、その使用浴槽全て(計14浴槽)で「表示している」であった。

イ、その表示場所について(上記ア、「表示して使用」の6施設について)(複数回答可)

施設での表示の場所は、「施設の入り口や受付」が4施設、「浴槽のそば」が5施設、「パンフレット・ホームページ」が2施設であった。

ウ、添加の時期

6施設のうち、「通年」が2施設、「一時期」が1施設、「不定期」が3施設であった。

エ、添加の期間(約～年前から)

6施設それぞれ、0.3年前、0.5年前、1年前、2年前、13年前、16年前から添加していた。

オ、添加物の種類(複数回答可)

果物では「ゆず」が3、花では「菖蒲」2、薬草では「薬仁茶」、「菖蒲」、その他として「にがり」、「ヒマラヤイオウ岩塩」であった。

カ、使用している理由(複数回答可)

「施設のPR効果を高める」、「季節感を感じてもらいたい」が、それぞれ3施設、「保温」、「いろいろな浴槽に入ってもらいたい」が、それぞれ1施設、その他として「健康増進のため」、「発汗作用をたかめるため」が、各1施設であった。

8 源泉について

ア、源泉の所有

96施設のうち、「自己所有」が83施設、「共同利用」が12施設であった。

(他にタクローリからの回答あり。)

a、「自己所有」(83施設)の場合

(a)源泉湧出量(直近データ可)

湧出量は8.9～77.2ℓ/分の範囲で、総計は約21,240ℓ/分であった。

(b)現在の湧出状況

「掘削動力揚湯泉」が77施設、「自然湧出泉」・「掘削自噴泉」・「未記入」が、それぞれ2施設であった。

(c)成分分析年

自己所有83施設について、温泉成分の分析年は、昭和34年の1施設が最も古く、40年代が3施設、50年代が5施設、60年代が5施設、平成1年以後5施設前後で推移している。

(d)湧出温度(直近既存データ可)

83施設の温泉湧出温度は、25 未満が13施設(15.2~22.4)、25~34 未満が27施設、34~42 未満が24施設、42 以上(42~54.5)が19施設であった。

b、「共同利用」(12施設)の場合の引湯量

10施設で「1~499リットル/分」であり、「3,300リットル/日」、「2トン/日」が各1施設であった。

9 浴用利用施設における掲示

ア、掲示してある温泉成分の分析年月日

全96施設について、掲示してある温泉成分の分析年は、昭和34年の1施設が最も古く、40年代が3施設、50年代が9施設、60年代が6施設、平成1年以後5施設前後で推移している。

イ、分析した温泉の採取場所

96施設のうち92施設とほとんどが「温泉湧出口」での採取であった。

「利用施設内」の「貯湯槽」での採取が2施設、その他1施設、未記入が1施設であった。

10 源泉から利用施設までの供給方法(複数回答可)

全96施設中「パイプ送湯」が89施設、「自動車等での運搬」が7施設、「浴槽底部から湧出」が1施設であった。自動車等での運搬頻度は、1~36回/月(一回の運搬量は1,000~20,000リットル)であった。

11 加水している浴槽の有無

96施設のうち加水している浴槽が「ある」が29施設(総浴槽数は124浴槽)、「なし」は67施設であった。

(加水浴槽がある29施設について)

ア、加水の時期

「通年」で加水しているのが27施設、「不定期」に加水しているのが2施設であった。

イ、加水の期間(約~年前から)

未記入の1施設を除く28施設で任意に分類すると、0.5~3年前からが10施設、5~10年前からが6施設、13~16年前からが10施設、30年前から、39年前からがそれぞれ1施設であった。

ウ、加水の程度(加水浴槽に使用する源泉を100として)

未記入の1施設を除く28施設について、「10%未満」が2施設(11浴槽)、「10~50%未満」が15施設(68浴槽)、「50~100%未満」が9施設(28浴槽)、「200%以上」が2施設(6浴槽)であった。

エ、加水している理由(複数可)

「源泉温度が高いため」が3施設、「湯量不足を補うため」が10施設、「湯が強酸・強アルカリのため」が2施設、「資源を保護し長期使用するため」が6施設、「その他」が16施設であった。その他の内訳は、「源泉の高温滅菌のため」が1施設、「加温しているため」が5施設、「温度調整のため」が3施設等であった。

オ、加水の表示の有無

29施設のうち「表示している」が5施設、「表示していない」が24施設であった。

表示している場合（複数回答可）

5施設の表示場所については、「入り口や受付」が1施設、「成分掲示場」が3施設、「浴槽のそば」が1施設、「パンフレット・ホームページ」が2施設であった。

表示していない場合

24施設のうち、「今後の表示予定あり」が3施設、「予定なし」が20施設、「未記入」が1施設であった。

12 加温している浴槽の有無

96施設について、加温している浴槽が「ある」のが89施設（浴槽総数は719浴槽）、加温浴槽「なし」が7施設であった。

（加温浴槽が「ある」89施設について）

ア、加温の時期

「通年」が86施設、「定期的」が1施設、「不定期」が1施設、「未記入」が1施設であった。

イ、加温の期間(約～年前から)

未記入の1施設を除く88施設について、任意に期間を区分すると、0.5～2.5年前からが26施設、3～5年前からが15施設、6～7年前からが12施設、8～10年前からが9施設、11～15年前からが13施設、16～20年前からが7施設、21年前からが2施設、30年前・35年前・39年前・45年前からがそれぞれ1施設であった。

ウ、加温の理由(複数回答可)

「源泉温度が低いから」が77施設、「加水により加温が必要」が8施設、「殺菌消毒のため」が6施設、「その他」が16施設であった。その他の内訳は、「循環ろ過方式のため」が1施設、「保温の為」が1施設、「温度調整のため」が11施設、レジオネラ対策のためが3施設であった。

エ、加温の表示の有無

加温について「表示している」が10施設、「表示していない」のが79施設であった。

「表示している」10施設について（複数回答可）

加温の表示をしている場所については、「入り口や受付」が3施設、「成分掲示場」が5施設、「パンフレット・ホームページ」が4施設であった。

「表示していない」79施設について

今後の加温表示については、「予定あり」が5施設、「予定なし」が73施設、未記入が1施設であった。

13 循環ろ過装置利用の有無

96施設のうち、循環ろ過装置の利用が「ある」のが83施設（循環ろ過している浴槽の総数は433浴槽）、ろ過装置の利用が「ない」が13施設であった。

(循環ろ過装置の利用が「ある」83施設について)

ア、循環の方式

「浴槽内のみで循環」が68施設、「浴槽から溢れた湯も循環」が13施設、「その他」が2施設であった。

イ、ろ材の清掃頻度

ろ材の清掃頻度については、「毎日」が67施設、「2日に一度」が4施設、「3日に一度」が2施設、「4日に一度」が2施設、「5日に一度」が1施設、「7日に一度」が6施設、「8日以上に一度」が1施設であった。

ウ、その理由 (複数回答可)

循環ろ過を利用する理由については、「供給湯量の不足を補うため」が19施設、「温泉資源を保護するため」が14施設、「浴槽の汚れなどを除くため」が68施設、「その他」が11施設であった。その他の内容は、「下水道のコストが高い」、「レジオネラ対策のため」、「経費削減」、「鉄分除去」等であった。

エ、循環ろ過装置利用の表示の有無

ろ過装置利用について、「表示している」が7施設、「表示していない」が76施設であった。

「表示している」7施設について(複数回答可)

表示の場所については、「施設の入り口や受付」が2施設、「成分等の掲示の場」が4施設、「浴槽のそば」が1施設、「パンフレット・ホームページ」が2施設であった。

「表示していない」76施設について

今後の表示予定については「予定あり」が8施設、「予定なし」が68施設であった。

14 源泉かけ流しをしている浴槽の有無

96施設のうち、かけ流しをしている浴槽「あり」が14施設(未記入を除く13施設の総浴槽数は33浴槽)、かけ流しをしている浴槽「なし」が82施設であった。

(かけ流し浴槽がある14施設について)

ア、それら浴槽の容量(合計 ~リットル)

施設ごとのかけ流し浴槽の総容量を任意の段階に区分すると、「400~700リットル」が3施設、「1,500~4,000リットル」が4施設、「8,000~15,000リットル」が4施設、「30,000~60,000リットル」が3施設であった。

イ、それら浴槽への温泉供給量(合計 ㍉/分)

各施設のかけ流し浴槽への総供給量を任意に分類すると、「0.6~2.0㍉/分」が3施設、「3.0~4.0㍉/分」が4施設、「6.0~11.0㍉/分」が3施設、「60,000㍉/分」が1施設、「不明」が3施設であった。

ウ、源泉かけ流しについての表示の有無

かけ流しについて、「表示している」が6施設、「表示していない」が8施設であった。

15 浴槽の清掃等

ア、湯の入れ替えの頻度(施設内の最大浴槽のみ回答)

96施設のうち「毎日」が17施設、「2日に一度」が6施設、「3日に一度」が6施設、「4日に一度」が9施設、「6日に一度」が1施設、「7日に一度」が42施設、「8日以上に一度」が15施設であった。

イ、浴槽の清掃の頻度(施設内の最大浴槽のみ回答)

96施設のうち「毎日」が33施設、「2日に一度」が6施設、「3日に一度」が7施設、「4日に一度」が3施設、「6日に一度」が1施設、「7日に一度」が36施設、「8日以上に一度」が10施設であった。

ウ、浴槽の湯の殺菌処理の方法(複数回答可)

96施設のうち「殺菌処理は行っていない」が5施設、「塩素で殺菌」が90施設、「オゾンで殺菌」が1施設、「紫外線殺菌」が2施設、「加熱で殺菌」が5施設、「銀イオン殺菌」が2施設、「その他の方法」が2施設であった。

エ、浴槽の清掃・消毒方法に関する情報の利用者への表示

96施設のうち利用者に対して「表示している」が10施設、「表示していない」が85施設、未記入が1施設であった。

「表示している」10施設について

表示の場所については、「施設の入り口や受付」が6施設、「成分等の掲示の場」が2施設、「浴槽のそば」が1施設、パンフレット・ホームページ」が3施設であった。

表示していない85施設について

今後、かけ流しの表示予定については、「ある」が10施設、「ない」が74施設、未記入が1施設であった。

オ、貯湯槽の有無

96施設のうち、貯湯槽が「ある」のが84施設、「ない」が11施設、未記入が1施設であった。

カ、貯湯槽の清掃の有無

貯湯槽が「ある」84施設について、「清掃を実施してきている」が75施設、「これまで清掃したことはないが、今後清掃するつもり」が6施設、「今後も清掃するつもりはない」が3施設であった。

「清掃を実施してきている」75施設について、年間の清掃実施回数は、「1回」が45施設、「2回」が12施設、「4回」が6施設、「6回」が3施設、「12回」が6施設、「24回」が3施設であった。

16 その他

a、入浴前の洗体を掲示板等で周知

全96施設について、利用者に対し「入浴前に体を洗うよう」に施設内の掲示板等で周知を「している」が63施設、周知「していない」が33施設であった。

b、貴温泉地全体の湯量減少の場合、貴施設で使用量を控える必要があると思うか

96施設のうち、使用量を控える必要が「あると思う」が28施設、「そう思わない」が9施設、「わからない」が52施設であった。 その他表記があったものとして、「ほかに施設が無い」が5施設、「未記入」が2施設であった。